

田舎物



四編下

萬吉板



國
輝
画
作



五編下

新
鞠
名
子
田
舎



五編上

新
鞠
名
子
田
舎

善

國輝画
一九作

田舎
物語

志
守
津

六編下

紅英堂梓

六編上



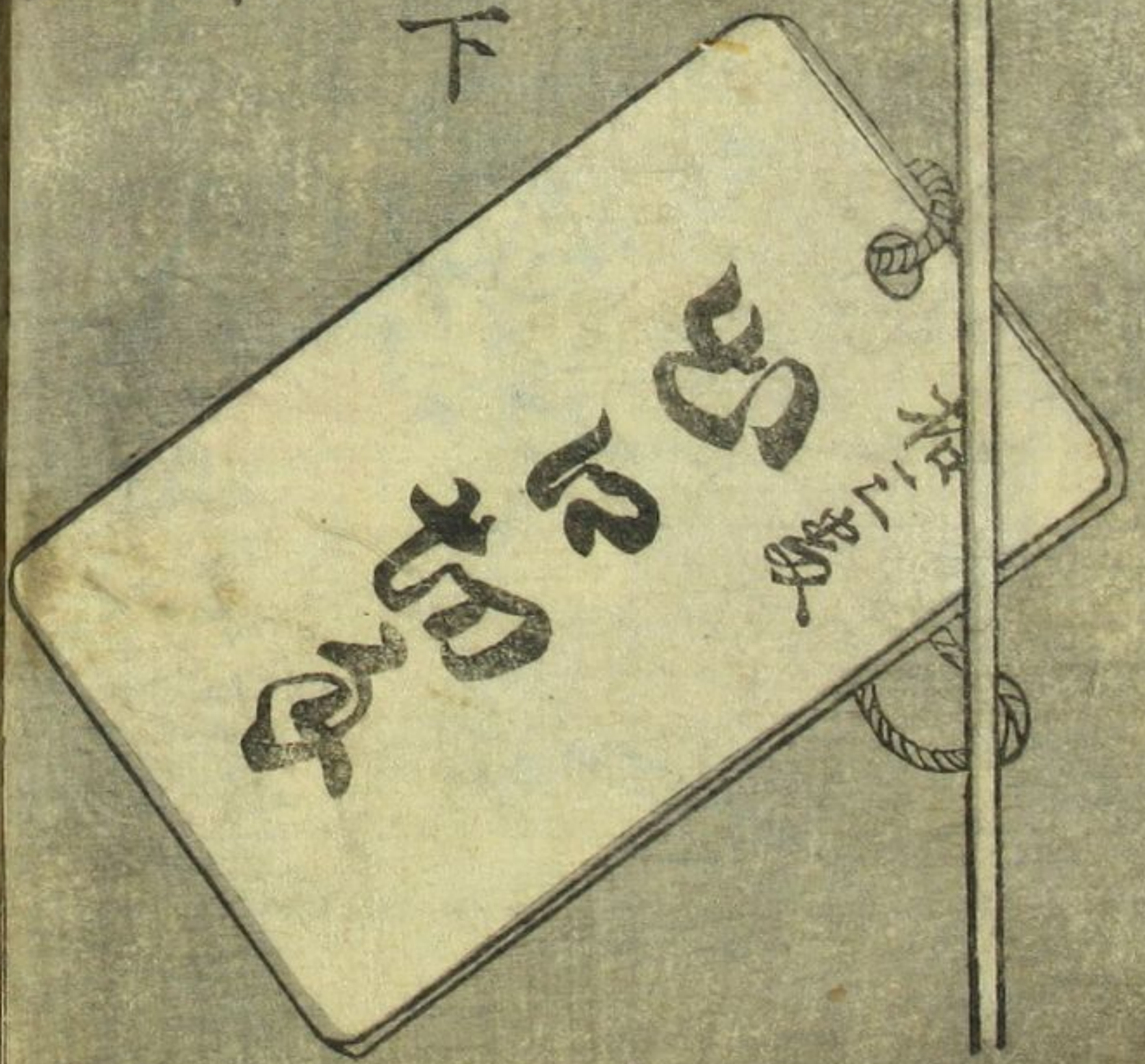


新撰田舎物語

第六編下

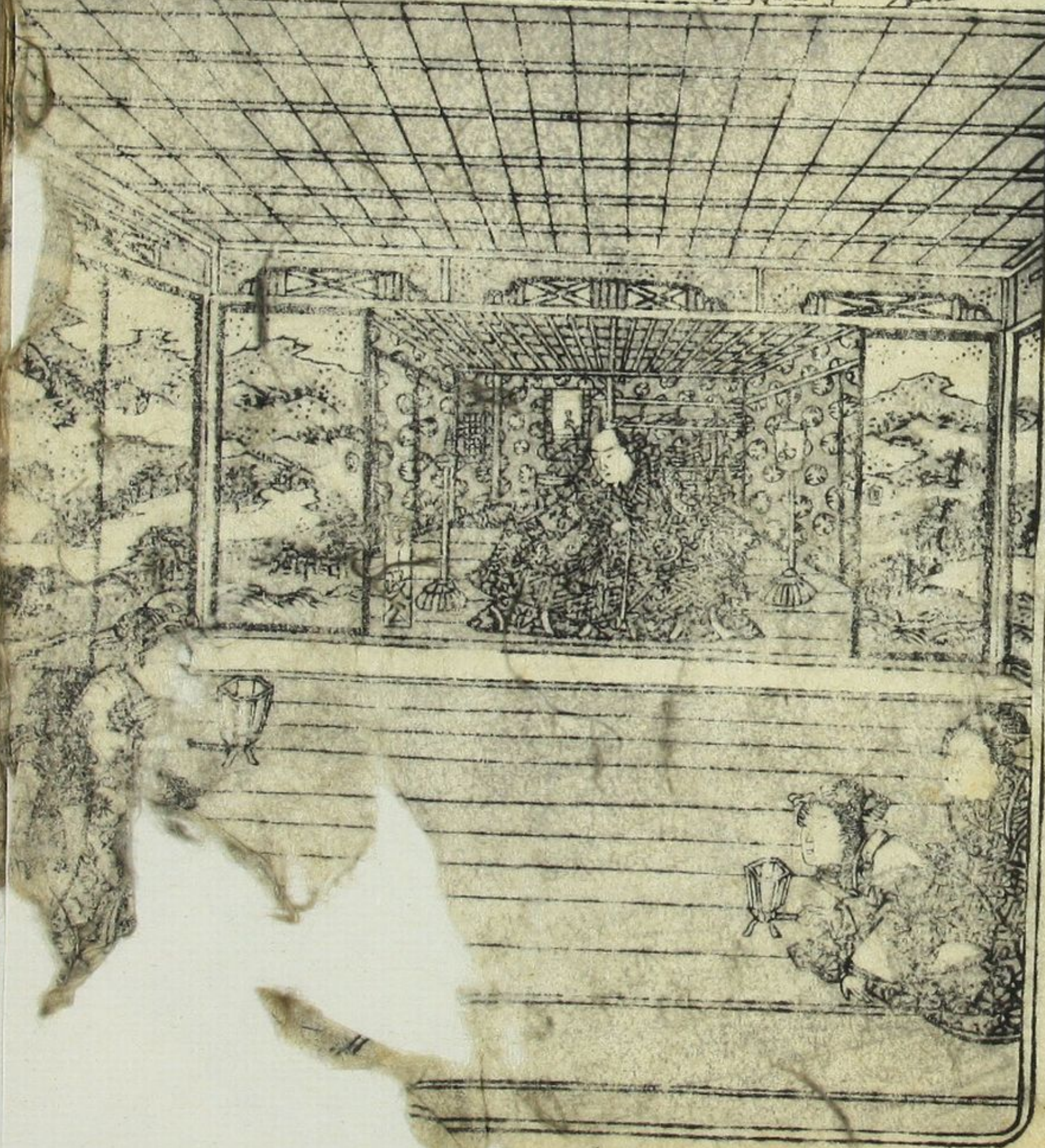
十返舎一九作

一推本所國輝画



新撰田舎物語第四編

田舎道麻呂と藤原君
 巻と俊と藤原君の巻の二と
 忠と巻と蛇の二とせしめ亦
 細井貞雄の忠と巻と蛇
 の二とく藤原君巻と蛇の
 二と定てその證と空玉琴
 の巻と論とくも巻と忠
 乞巻と蛇の二とせしめ亦
 れも田舎道とくも巻と細
 井の流とくも巻と蛇の二
 巻と相撲の巻とくも巻
 の事とくも巻と蛇の事と





立日川
仲忠

初名光三

後蔭巻
年十八
侍浪
ありぬ

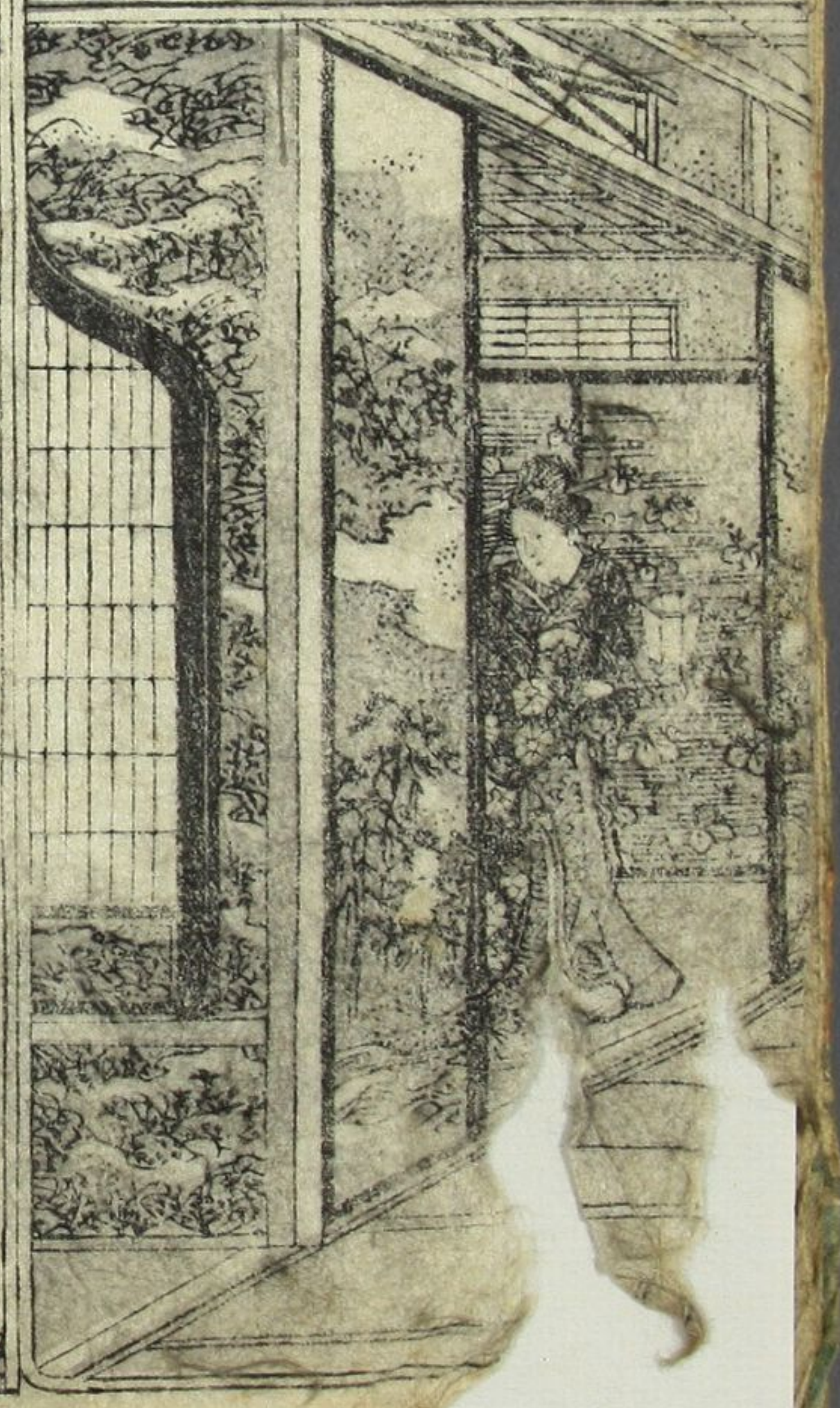
京極上小擬

京の方
初名貞草

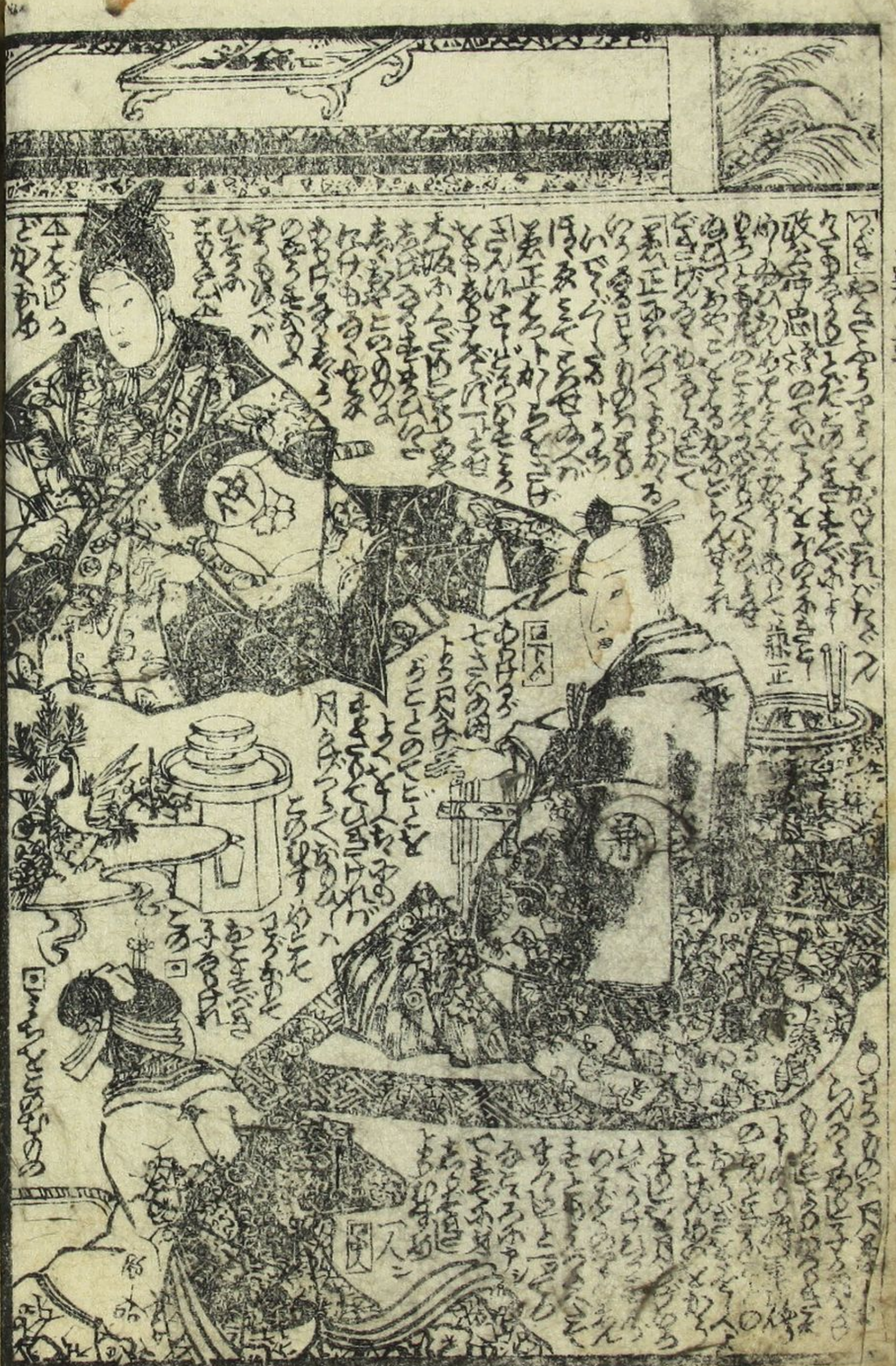


侍女
真垣

前後は義政が京方の
春と乞望する色気薄
く成見物のかと氣小ぢり
合すいと恋路の事小ぢり
濡衣着せし我ら鳴呼
為世かそる
嘉永四年春發市
十返舎一九記

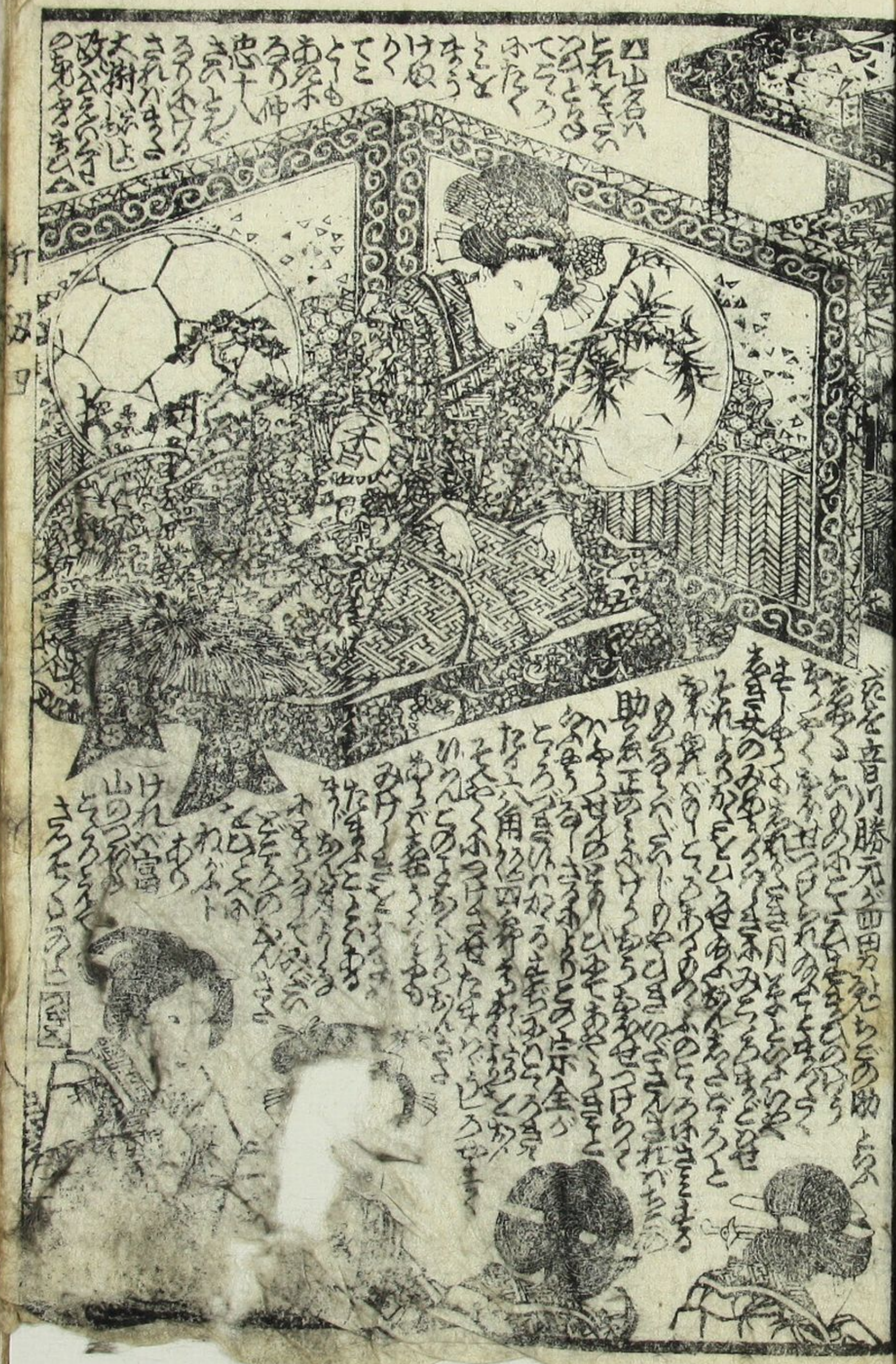




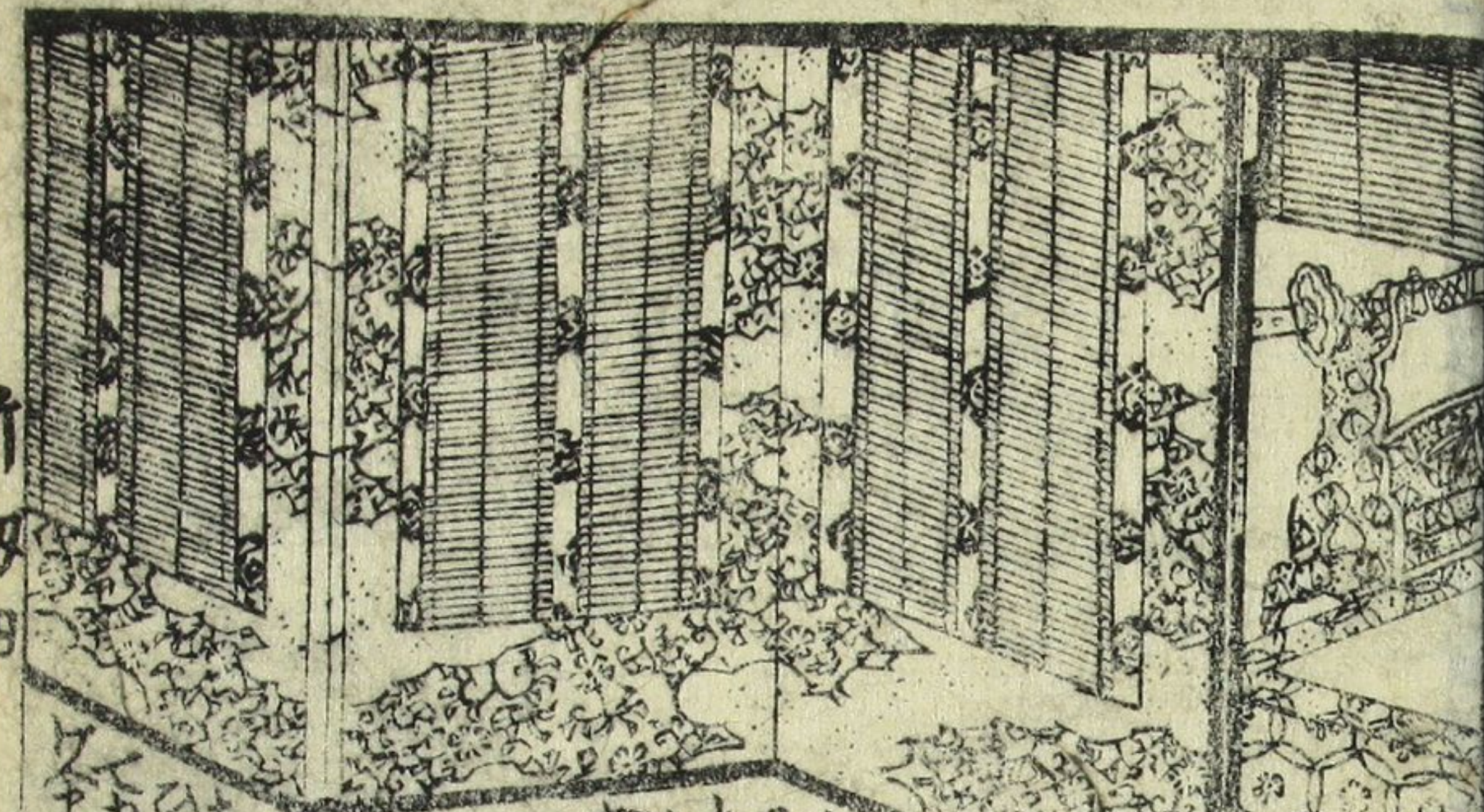


新編

新編

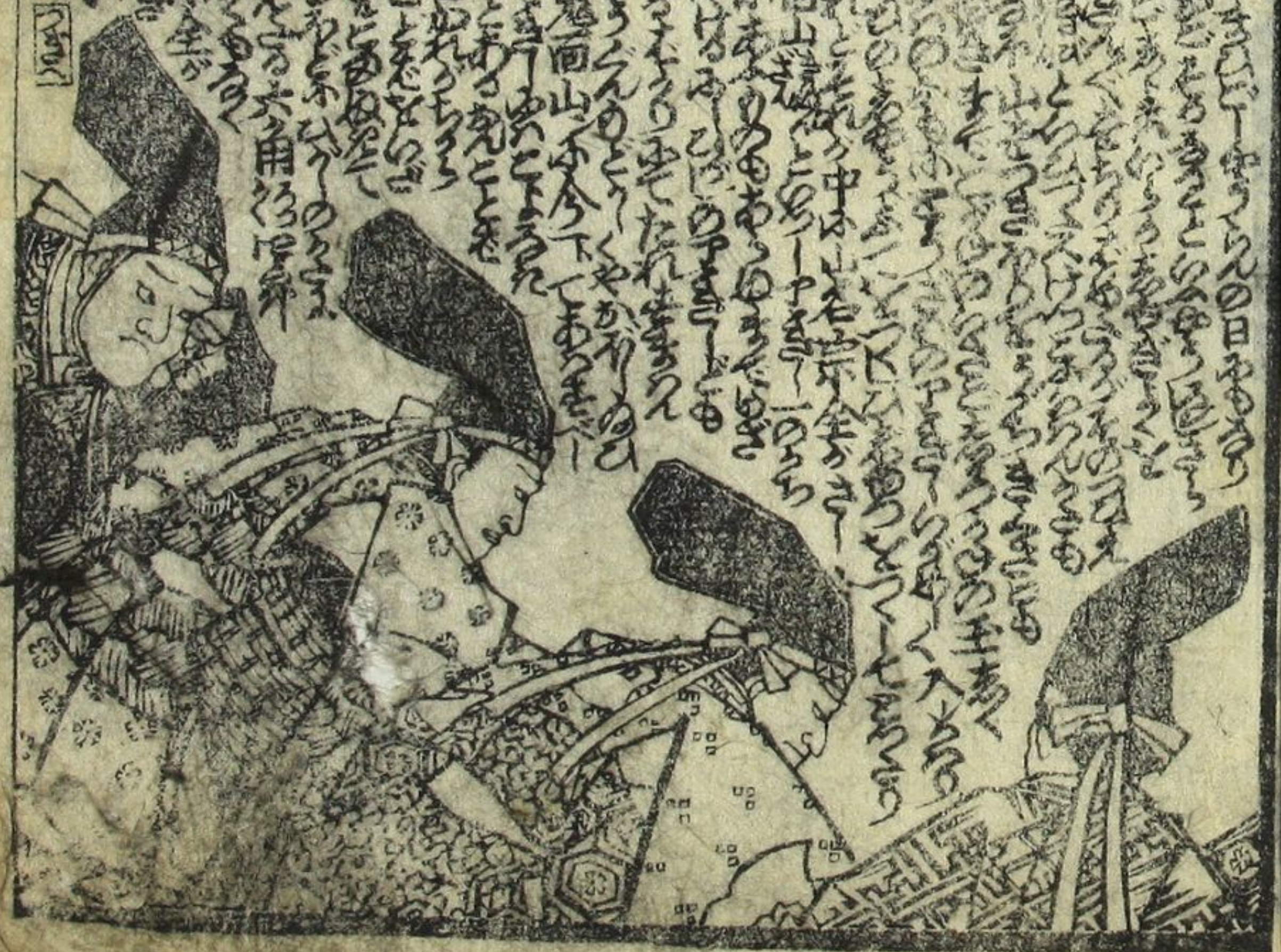


新編



○まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ

○まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ

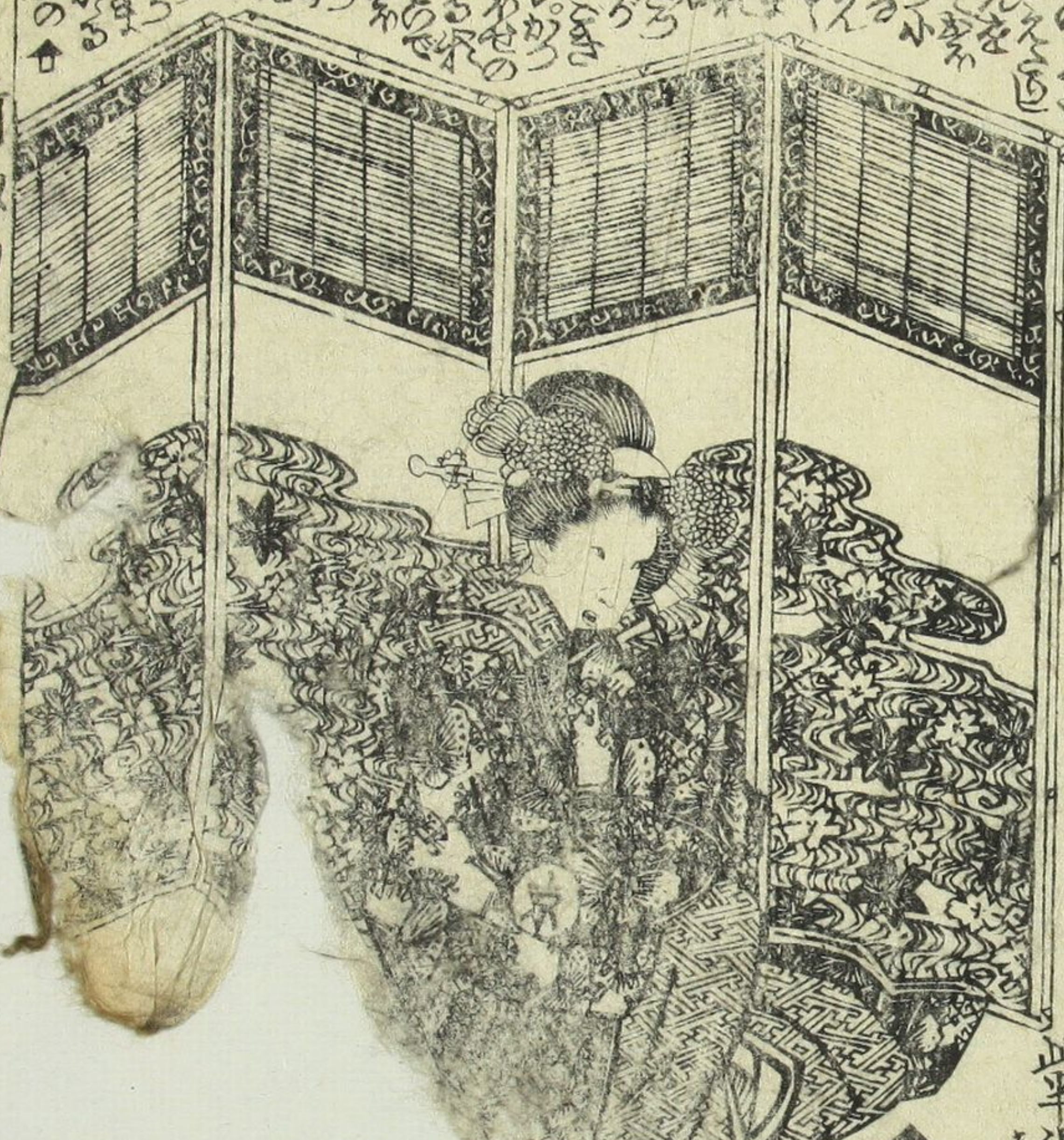


○まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ

○まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ
まはるをまはるてしつらるる日おもひ



○ついでに... 鬼面山の... せうりくを... ちゅうせいの... けつて... せいふ...



此半張画の相撲
上賢並図也

甘あめ... ちゅうせいの... せいふ...

一九作 國輝画

○ついでに... 鬼面山の... せうりくを... ちゅうせいの... けつて...



鬼面山

鬼面山... せうりくを...

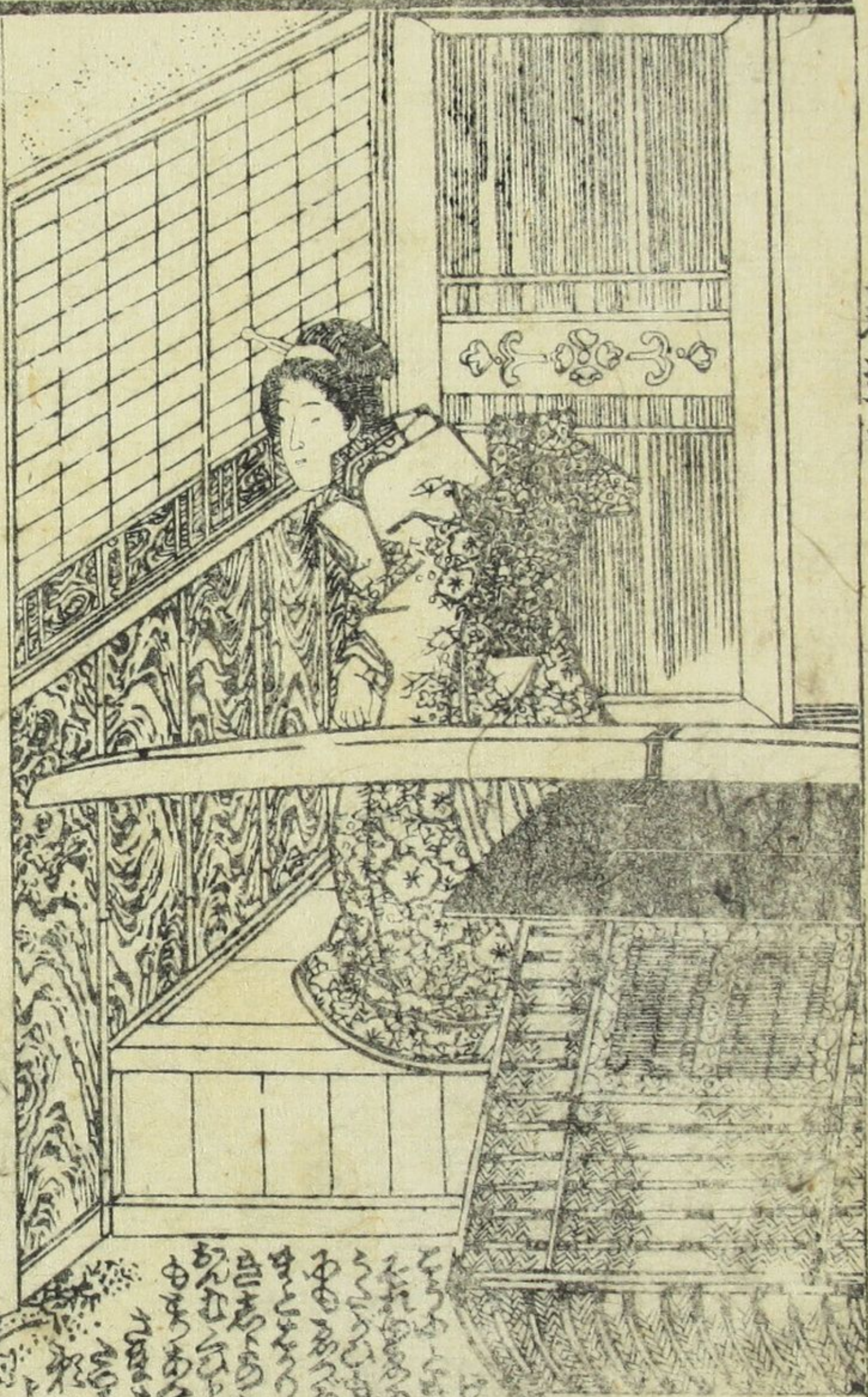
鬼面山... せうりくを...



六角家の
 宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ

宗全の宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ

六角家の宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ

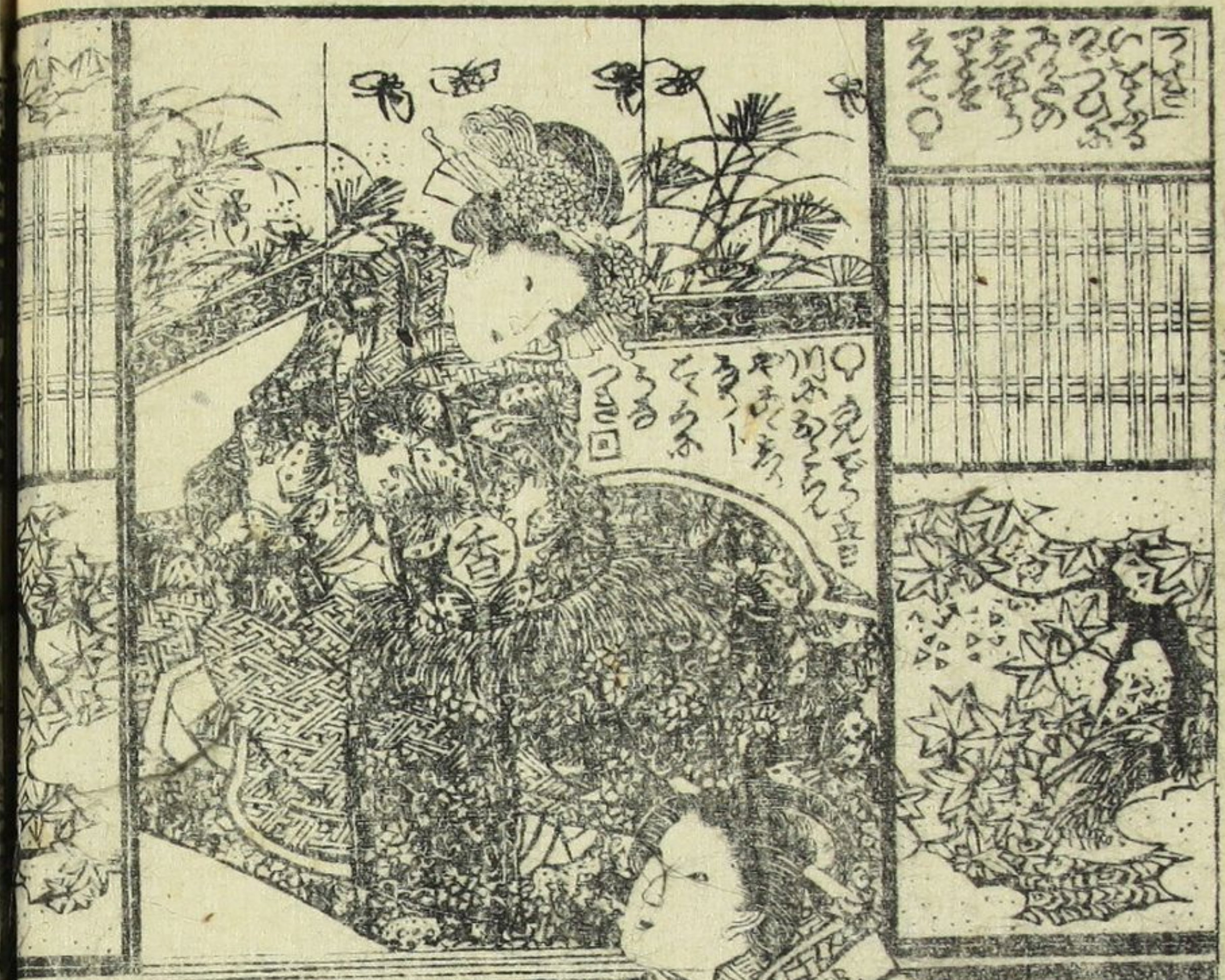


六角

六角家の宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ

六角家の宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ

六角家の宗全はあつち
 ひよりにてあつち
 ろやまひやくの宗全
 一トをたふし
 けた
 けつ



十返舎一九作 雄齋國輝画

新編田舎物語第五編自序

豊竹筆大夫が悪娘昔八丈多城木屋の段の流行せし事ハ一層の夜ふか駒と駒
衝當との川柳貞の穿中粗知れる近頃流るるの流るや那里でも是所
も諺紫同色氣が附合り今孰考れ近江源氏の石山より筆とをま柳亭
源氏溪より源氏の松間より流れが分るを笠亭源氏其花笠や文亭源氏柳下亭
源氏とあつる源氏とあつる相をわがも異なるのと去年の作もたあつるが
新勅も退れぬ中甲舎との名小緑もあれ繪割も源氏小擬似ハ大格子の横又立
巻ひくうの嶋柄の浦四五端儼われ原素赤る筆大夫當とてあつるあつる
高賣の杉九太程趣向もたれ髪結勢の才智もる活計の實の刺刀の果敢の
日々催促小因果とてあつるえません書房さんまのや今日や明日おと去て里長
梅と生たつ今とじて稿成るごととせらるる時ののち口去訳も侍らるる
と倉庫に文題ぬ

嘉永 三成春稿成
四亥春發市

十返舎一九記

藤原君卷

こがはらの車一
檳榔ものゝほ二

とある女小姫の
京都朱萼野の
なれ女 芳野

宗重娘

宗重娘



右大臣

赤松左大夫隣



源忠恒
北方不擬ふ

殿御前
一条通不
任の

一条
方と
称と

香樹前

香

空物語の忠七十四と君と君とのひて
 通よりこれと云ふ二歳増て十六歳と云
 阿兒す素性の奉るる本書よるま
 是一時の戯作なるやうの未々

逢葉の毛を

物の名

西山宗因

蓬菜の

木深
 山ろこが

昆布

草薺
 所
 草薺

大

千
 忠
 赤松
 忠太郎
 赤松
 忠太郎



蓬菜の山



忠恒

あこ君小擬

阿兒

新

月指



あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も
あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も

あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も
あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も

あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も
あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も



あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も
あつちのそとをみれば
とちうのわがやうな
うらやまの心も

新巻

あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
忠に十のさのやもるひあはれあやうぐんの
さるやと一糸のちのくさるやもる
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと



あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと

あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと



あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと
あめりえをまよまよとせんとあめりつとせんと

あつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい



あつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい

あつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい



あつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい
 まつておかし
 こゝろのうら
 さびしい



その外百一十の
は町を信町と
云

敬
疏

梅園
梅壺
梅壺
梅園



月夜の方へ茶やりの
うどんを仕立り
やきごろうか

相のゆい
八千代とて
橋本一だんの
ちまびり

十返舎一九誌

于時嘉永五十年發市

看衆と云ふのとき
菅更は作者歎て
嗚呼新靴陶例
そハ却よいれぬら
強りと書肆笑て去ぬ
云



朱雀野三筋町
 浦那木
 初名あて

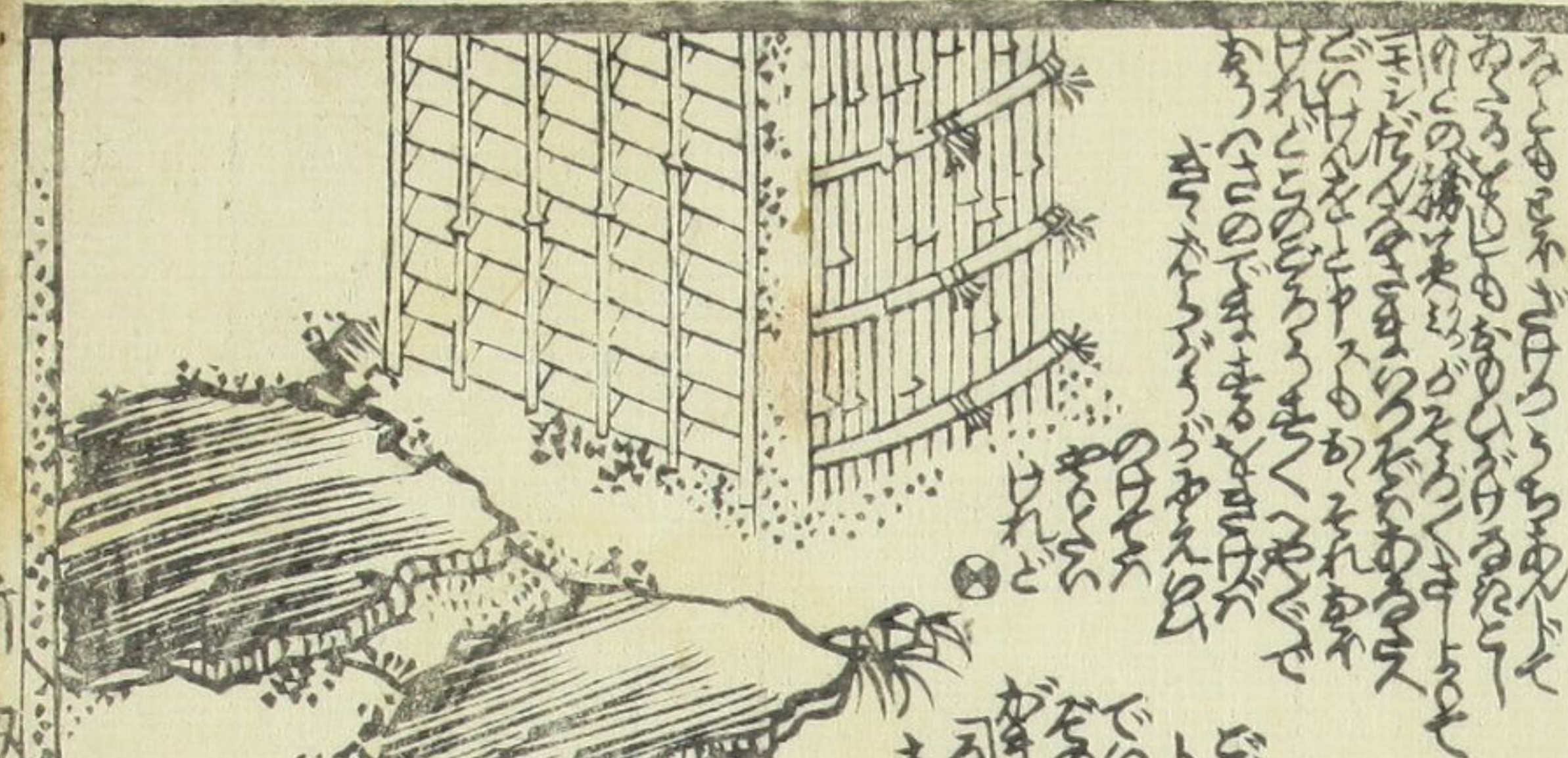
これこれ



實相集漏大
 海五塵六欲
 止風不吹隨
 緣真如火彼
 不立無時

小頃
 風もよみよみ
 花のよみよみ

赤松太郎忠奉
 十六歳姿



Handwritten Japanese text in the upper right corner of the left page.

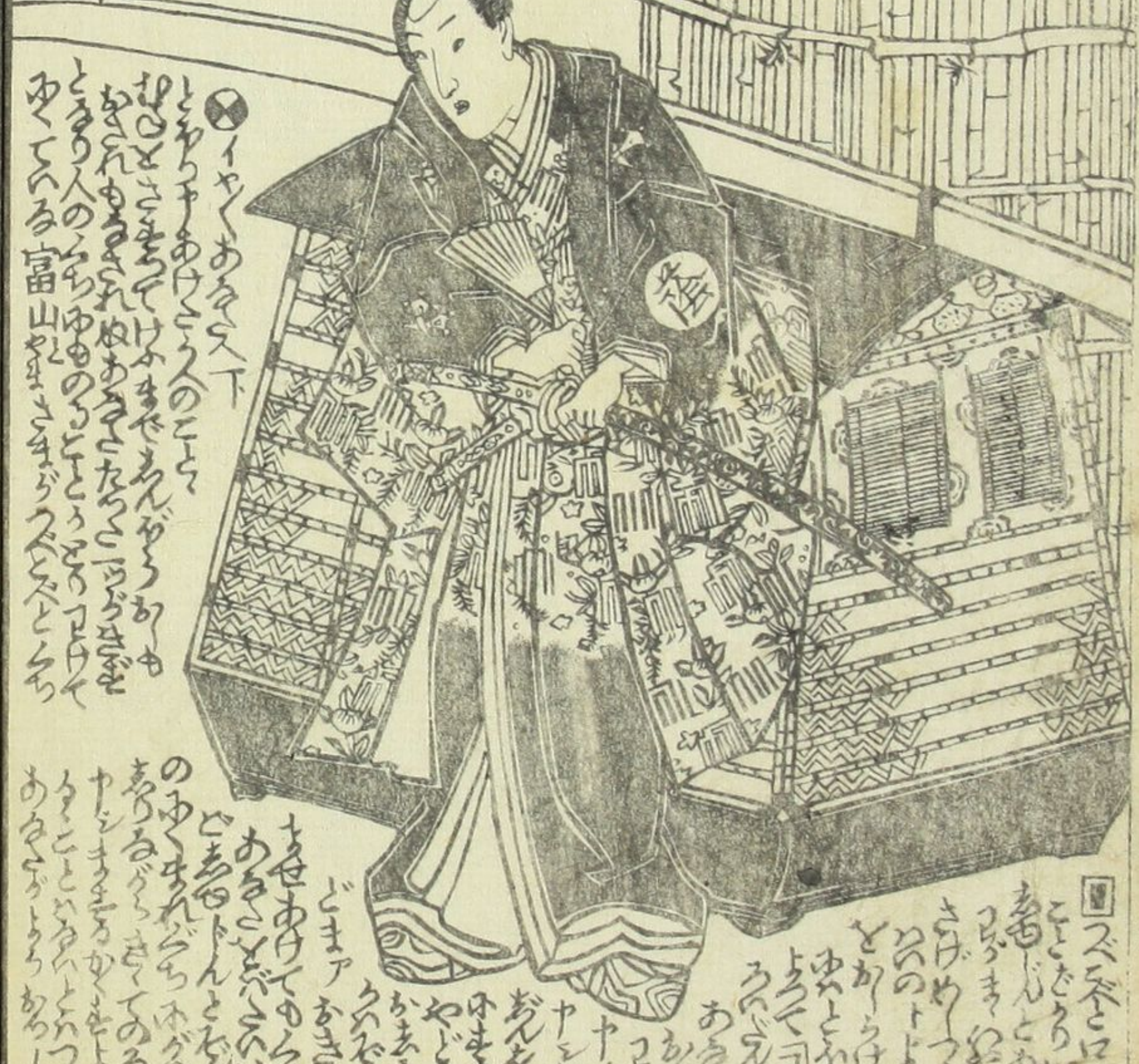


Handwritten Japanese text surrounding the illustration of the two women.

Handwritten Japanese text at the bottom of the left page.



Handwritten Japanese text in the upper right corner of the right page.



Handwritten Japanese text surrounding the illustration of the woman in the garden.

Handwritten Japanese text at the bottom of the right page.



新田小

Handwritten text in vertical columns surrounding the illustration on the left page.



新田小

Handwritten text in vertical columns surrounding the illustration on the right page.

二〇四のついでにやま
 ありてはさしあわ
 らまのりやまのり
 てはつらつら
 ありてはさしあわ
 らまのりやまのり
 てはつらつら



このついでにやま
 ありてはさしあわ
 らまのりやまのり
 てはつらつら

宗

〇人のまればとりのひてらちま
 あつらひてらちまのり
 のたりとらちまのり
 のたりとらちまのり
 のたりとらちまのり

一國輝画 九作

二〇五のついでにやま
 ありてはさしあわ
 らまのりやまのり
 てはつらつら



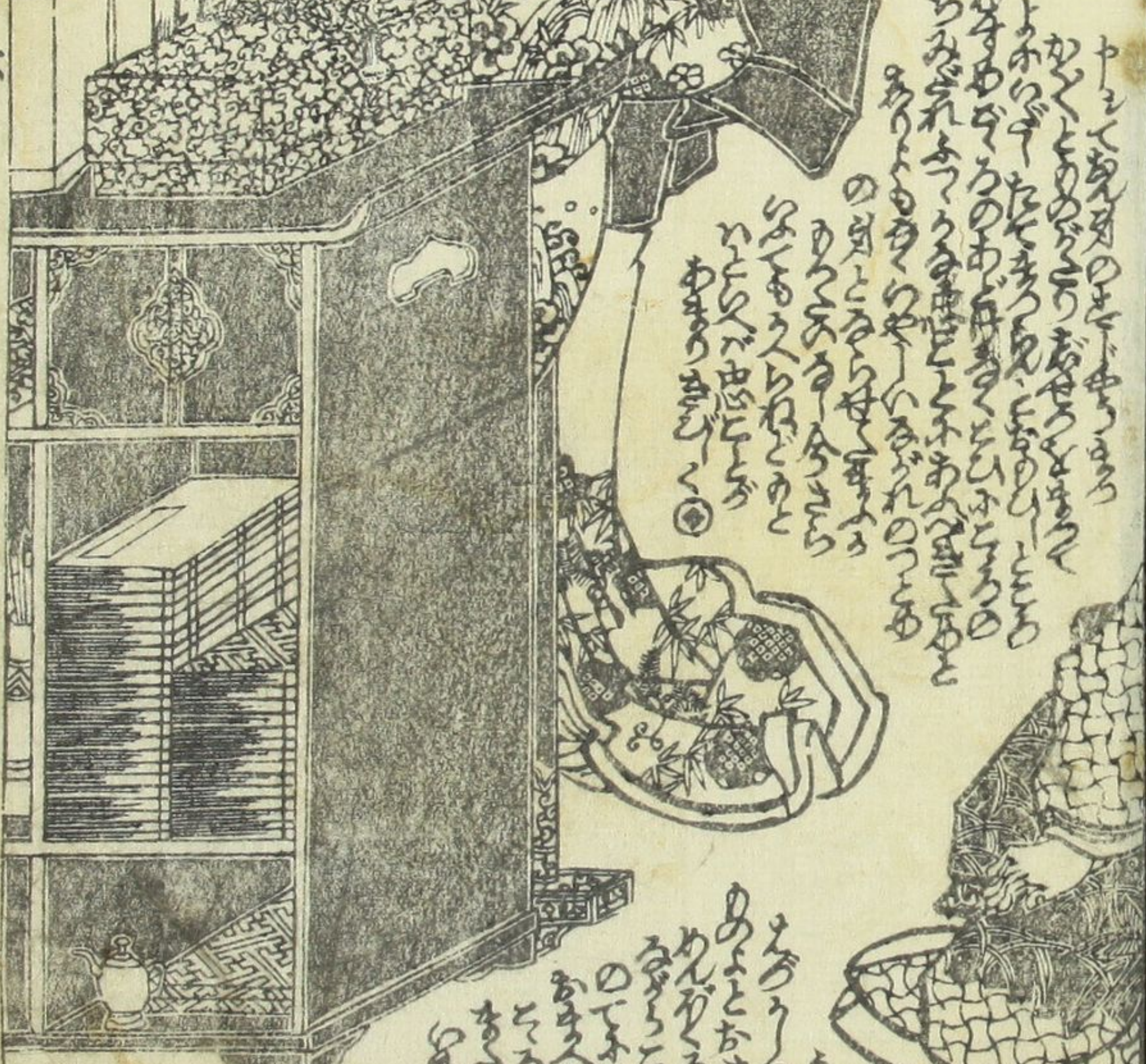
新書六

むかしに...
 かの...
 かの...
 かの...
 かの...



かの...
 かの...
 かの...
 かの...

むかしに...
 かの...
 かの...
 かの...



かの...
 かの...
 かの...
 かの...

一九作國輝画

この書は、明治十九年（1886）に刊行された『大晦日曙草紙』の挿絵集である。挿絵は、江戸時代末期から明治初期にかけて活躍した画師によるもので、その様式や表現は、その時代の流行を反映している。本書には、物語の場面や人物の姿などが描かれており、当時の生活や風俗を知る上で貴重な資料となっている。



大晦日曙草紙 十七編京山作 十八編國政画

新鞍田舎物語 六編一九作 七編國輝画

名犬の草紙 十六編仙果録 十七編仙果作 十八編國輝画

塩屋古今草紙合 七編仙果作 八編國輝画

御贄美少年始 六編一九録 七編國輝画

連理翅山雞奇縁 初編西馬補 二編國政画

俠客傳仙摸略説 六編西馬譯 七編國輝画

富士額天人於七 二冊仙果作 芳虎画

鳩巡浪間朝祭 三編種員譯 四編國輝画

春柳錦花皿 三編一九録 四編國輝画

府郷御江戸繪圖 大奉書 六枚付

日本國郡輿地全圖 全一六枚付

嘉永五年壬子新春新鐫目錄

東都南傳馬町丁目
 萬屋吉藏



家本 **實母散**

私方実母さんく夏中本一切のゆき
向高かへりとうるれおるは
白高かへりとうるれおるは

せんせんさんご
せんせんさんご

中橋

南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製

御免 痲積湯 **せんきのゆめ茶**

御用藥所 信州上田東山堂製



おろし 中橋南傳馬町二丁目
せんきの茶
九次所

葛屋吉藏

無るい
おろし
おろし
おろし

せいのちり

一袋
四十八銅

御茶
おろし

白美茶

一色
三十二文

せいのちり

一色
廿四文

曙乃富士

一色
廿四文



和